



KAC 便り
2017年 冬号

皆さん、こんにちは。毎日寒いですが、風邪などひかれていませんか？
今回の KAC 便りのテーマは

- ペットの誤食事故に注意！！
 - 腎臓について
- です。

ぜひ最後までお読みいただき、家族の一員であるペットちゃんの健康に役立ててください！



●年末年始はペットの誤食事故に注意！！

クリスマスやお正月は、パーティーなどで来客が増えることが起因となるペットの誤食事故に注意が必要です。

誤食事故はわんちゃんねこちゃんに慣れていない来客が人の食べ物を与えてしまったり、忙しく過ごしているうちに手の届くところに食べてはいけない物を置いてしまったなど、普段の生活との少しの変化が誤食事故につながります。

クリスマスによく出回るポインセチア (写真①) やプレゼントのリボンなどもわんちゃんねこちゃんにとって危険となる場合があります。

ポインセチアの葉や茎を食べてしまうと、中毒症状である胃腸炎を引き起こし、最悪の場合、死亡してしまうケースもあります。

リボンやヒモを遊んでいるうちに飲み込んでしまえば、胃や腸に絡まり、腸閉そくや腸壊死を引き起こしてしまうなどの危険な状態になりうるので十分な注意が必要です。

特に幼少期のわんちゃんねこちゃんは、人間の赤ちゃんと同様に、気になる物を口にくわえて確認しようとする。その上、好奇心が旺盛で食べてはいけないという学習経験や警戒心が未発達であるため、そのまま飲み込んでしまう可能性も高くなります。

誤食は飼い主の注意で防げる事故の1つです。前述のポインセチアやリボンなどの食べ物でないものを誤食するケースに加え、冬場はペットに対する美味しそうな誘惑も増える季節です。

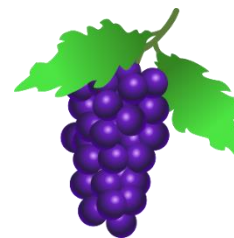
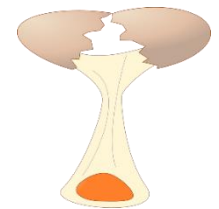
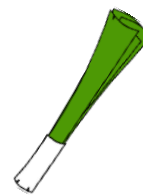
チキンの骨やおもち、わんちゃんやねこちゃんにとっては害になるチョコレートなどを盗食しないよう、気をつけてあげましょう。

これからの季節、ペットとのイベントを最後まで楽しむためにも、パーティーの後片付けはなるべく早めにおこなったり、ゴミ箱をフタ付きにするなどの対策をして誤食事故を予防しましょう。



注意が必要な物

玉ねぎなどのネギ類、生卵、生のイカ、タコ、エビ、ぶどう及びレーズン、レバー、牛乳等



(動物看護師 軽部未緒)

★年末年始のペットホテル・トリミング ご予約受付中です！★



年末年始・冬休みは込み
合いますので、**お早目**
にご予約ください。お待ち
しております！！



金町アニマルクリニック 葛飾区金町2-29-6 03-3609-7517
永代橋アニマルクリニック 江東区永代1-9-1 03-5875-8771

2017年12月5日発行

●腎臓について

腎臓というと尿を作ってる、左右2個ある。ぐらいしか知らない方も多いでしょう。物事の特に重要さを表す“肝心要”という言葉がありますが昔は“肝腎要”と表していたぐらい重要なものと知られています。生命の維持を司る影の功労者です。

そんな腎臓の小さなSOSにどのように気付いてあげられるか、健診の種類のご紹介です。

猫では3頭に1頭、犬では10頭に1頭が一生のうちに慢性腎臓病（以下CKD）を発症するといわれており、特に猫では主要な死因のひとつです。

CKDの早期の場合、無症状のことが多いです。兆候としては多飲多尿、体重減少、食欲低下、元気減少、脱水、嘔吐、口臭などがあります。飼い主様が気付いた時にはだいぶ進行して腎機能障害でなく腎不全となっている場合も多いです。CKDの治療は完治ではなく進行を遅らす治療となるので早期の治療開始が予後に関わってきます。

腎臓機能の検査には

1. 尿検査（院内検査もしくは外注検査）
2. 超音波検査、レントゲン検査
3. 血液検査（院内検査もしくは外注検査）
4. その他



があります。

今回はその中でも昨年の2016.7から日本国内でも検査が可能となった最新の検査SDMAという検査をご紹介します。

SDMAは先述した③の血液検査の外注検査となりますので結果は即日には出ませんが、長くても数日～1週間程度で結果が出る比較的、迅速な検査です。

院内での血液検査の腎臓の項目としてはクレアチニンという項目がありますが、クレアチニンは腎機能が75%喪失するまで上昇しないのに対し、SDMAは腎機能が平均40%喪失した時点で上昇します。つまりはそれだけ早期に腎機能低下を察知できます。またSDMAはクレアチニンのように筋肉量に影響されないため、痩せた犬猫（たとえば高齢や悪液質）であってもより正確に測定できます。

腎機能の評価は一個の検査、一回の検査では確定できません。SDMAで検査値の上昇があっても他に腎機能低下の兆候がない場合は検査を数週間後に再度行い、その結果を踏まえて治療プランを立てていきます。

腎臓の治療は先に述べたように完治を目指すものでなく、うまく付き合っていくものが主体となります。つまりは治療開始からその命が終わるまで続ける長い道のりとなります。費用や投薬の手間、など各家庭により行える治療は変わってきます。

どのような治療方針が飼い主様やそのご家族のペットにとって幸せなのか相談の上、治療をしていきましょう。

人間も動物も昔に比べて寿命が延びていますが、一番大事なことは健康寿命を延ばすことです。KACはその一端をお手伝いできれば、と考えています。（獣医師 西田智美）

